

(中間評価)

## 生命医学イノベーション創出リーダー養成

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：神戸大学（総括責任者：福田 秀樹）

### プロジェクトの概要

21 世紀の成長産業として注目されている生命医学分野の研究開発をリードする若手イノベーション人材の養成は、我が国の経済成長を左右する喫緊の課題である。本プロジェクトでは、医学研究科を始めとする神戸大学の生命医学関連研究科と関西エリアに集積する生命医学関連企業が連携することにより、従来の大学院教育では成しえなかった、企業マインドあふれる若手イノベーション人材を養成する。本プロジェクトから輩出される人材は、高度な専門性に加えて、産業界など実社会のニーズに対する深い理解と優れたグローバルコミュニケーション能力を兼ね備え、生命医学関連企業等において、研究開発の第一線でリーダーとして活躍することが期待される。

#### (1) 評価結果

総合評価	進捗状況	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
B	b	b	b	a	b

総合評価：B（所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組も見られる）

#### (2) 評価コメント

医療産業関係企業、医療イノベーション神戸連携システム（MICKS）を基底に、生命医学分野の人材を産業界に輩出するシステム構築、早稲田大学との連携、企業との共同研究を通じた財源確保といったシステム構築にかかる意欲は評価できる。しかし、全学展開が不十分で、学内における事業の認知、教員の事業への理解が不足しており、養成者の確保が不十分である。今後は、医学系以外の研究科を積極的に巻き込み、教員の意識改革をすすめ、また、PDCAサイクルを機能させ、本事業を進展させることが必要である。

- ・ **進捗状況**：事業開始当初の想定を覆す医師免許保有者の養成者としての採用に一定の制約条件が加えられたことを差し引いても、応募者は少ないと言わざるを得ない。養成システム構築の取組は行われているが、医学系以外の学内の認知は必ずしも高いとは言えず、教員の意識改革、積極的参加が必要である。
- ・ **イノベーション人材養成システム改革状況**：事業開始後 3 年を経て、養成システムとしての立ち上げが実施された段階である。これを機能させ、さらに改善を行って、全学の教員の意識改革ができる実施体制の整備と運用が必要である。

- **実践プログラムの開発・運用状況**：200社を超える医療産業関係企業、MICKS、早稲田大学との連携をベースにした実践プログラム開発など、一定の水準に達していることは評価できる。しかしながら養成対象のポストドクター、博士課程（後期）学生の応募が少なく、全学的な運用に至っていない。生命医学分野の博士人材養成に限定した取組となっており、PD・DCが多数在籍する自然科学分野の研究科への展開が不十分である。
- **実施体制**：人数は少ないものの、海外インターンシップ等、国内外のインターンシップの実績をあげていることは評価できる。今後は、医学系以外の教員の積極的関与を促し、博士人材の養成を全学的に展開することを期待する。
- **今後の進め方**：現状では医学部中心の体制となっているが、今後は、全学展開を図ることが必要である。そのためには、ミッションステートメントで掲げられた目標を達成すべく、現状分析に基づいたPDCAサイクルを積極的に回してプロジェクトを発展させ、成果を上げることが必要である。企業との共同研究やMICKSにおける成果を自主財源として還元確保するといったビジネスモデルは事業継続の方向を示すものであり、実現していただきたい。